

# 第二期しなのきプラン (2018~2020年度)

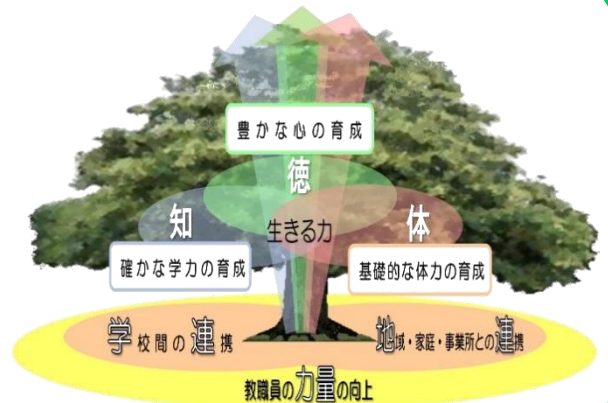
～長野市の子どもたちの「知・徳・体」をバランスよく伸ばしていくために～

## 『2019年度の取組状況と2020年度の取組』

### 目指す人間像

グローバルな視野を持ちながら、  
ローカルにたくましく生きる自立した18歳

長野市教育の基本理念である「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」に向け、教職員の力量の向上を教育活動の基盤と考え、学校、地域、家庭、事業所等の更なる連携の中で、「知・徳・体」をバランスよく伸ばし、子どもたちに「生きる力」を育むための支援を行う。



## 第二期しなのきプランの全体イメージ

### <3つの重点>

- 知 確かな学力の育成
- 徳 豊かな心の育成
- 体 基礎的な体力の育成

#### 外国語活動・外国語科への対応

拡大：ALT増員、外国語教育の研修  
・小3、小4の外国語活動、小5、小6の外国語科に対応するため、ALTを増員  
・小学校教員を対象とした研修の拡大・充実

グローバルな視野を持ちながら、  
ローカルにたくましく生きる自立した18歳

#### 調査を活用した指導改善②

継続：全国学力・学習状況調査の実施  
・小6、中3で実施  
・各校での分析及び市教委での分析に基づく指導改善

### <2つの連携>

- 学連 学校間の連携
- 地連 地域・家庭・事業所との連携

#### 調査を活用した指導改善①

継続：標準学力検査（NRT）の実施  
・小4、小5、小6、中1で実施  
拡大：中2でのNRTの実施  
・中学校における指導改善のサイクルを構築  
・分析シート等を活用した各校での分析及び市教委での分析に基づく指導改善

### <1つの基盤>

- 力量 教職員の力量の向上

#### 幼保小連携

継続：接続期カリキュラムの実践  
**地域・家庭・事業所との連携**  
継続：家庭と連携した基本的な生活習慣の確立  
新規：運動サーキットモデル事業における地域・PTAとの協力した設備づくり

#### 運動好きな子どもの育成②

新規：運動サーキット

#### 運動好きな子どもの育成①

継続：わくわく運動遊び  
・運動と遊びのプログラムの普及  
・運動好きな子どもの育成、教員等の啓発、授業への導入を促進

#### モデル事業

・モデル小学校による実践検証  
・市内小学校への普及

#### 体力調査の分析に基づく授業改善

継続：長野市教育センターの学校体育・学校保健研究委員会による調査の分析と授業改善の提案

#### いじめの未然防止・早期対応、登校支援の充実

継続：しなのき児童生徒意識アンケートの実施  
継続：市独自のスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置

#### 一人一人を大切にされた教育環境の整備

継続：特別支援教育支援員等の配置  
・一人一人の教育的ニーズに応じて、特別支援教育支援員や多様な言語に対応できる日本語指導協力者・日本語巡回指導員を確保・配置

#### 道徳教育・人権教育の充実

新規：道徳教育研究委員会による授業研究  
・市教育センターで研究委員会を組織し、「考える道徳」「議論する道徳」の授業提案と市内各校への普及

継続：人権教育指定校研究 ・市内全小・中学校を指定し、授業研究・研修を実施

教職員の力量の向上 様々な教育課題に対応するための研修講座

新学習指導要領を踏まえた研修講座、学校現場のニーズに応える研修講座

# 『3つの重点 2つの連携 1つの基盤』 重点取組の状況と2020年度の取組について

## 力量

### 教育活動の基盤となる教職員の力量の向上のために

#### 重点取組1 新学習指導要領に係る研修の充実と日常の授業での実践

##### 【主な取組状況】

##### ・新学習指導要領に係る研修講座の充実

教育センターでは、113の研修講座のうち40講座において新学習指導要領の新しい授業内容に係る研修を実施すると共に、カリキュラム・マネジメントについては、講義を通して方法を学び、具体的に自校の分析と来年度構想をたてる演習を実施することができた。

##### ・全小学校でプログラミング教育の推進

プログラミング教育については、全小学校に推進委員を位置付け、1校1授業以上の授業実践、職員研修、ICT支援員の派遣等の取組を推進した。年に2回、推進委員会全体会を開催し、実践発表を行った。

##### ・指導主事による学校訪問支援

指導主事による学校訪問支援については、特に複数指導主事派遣型、短期継続派遣型、通年派遣型の訪問要請が増加（計13校、延べ29回訪問）し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた支援を継続してきた。



ホワイトボードを使って話し合いを活性化させる教師の支援



プログラミング教育の授業公開の様子

#### 重点取組2 知・徳・体をバランスよく伸ばすための実践研究

##### 【主な取組状況】

##### ・キャリア教育、道徳教育、保健体育等の研究の充実

児童生徒理解や学級づくり等を大切に、キャリア教育、道徳教育、保健体育等8つの委員会でも多様な学びの実現に向けた指導改善についての研究を行った。具体的な児童・生徒の姿に焦点を当てながら、授業公開を通して効果的な支援の在り方について研究を深め、成果を教育センターだよりで市立小・中学校に発信した。



研究委員会 授業公開の様子

#### 重点取組3 研修体系の見直しと学び続ける教職員を支援する「研修のあゆみ」の活用

##### 【主な取組状況】

##### ・到達目標に対する自己評価と「研修のあゆみ」の利用促進

研修内容の評価として、教育センターで実施するすべての講座に到達目標を設定し、受講者が自己評価を行った。肯定的評価が97%と大変高い結果となった。一方、「研修のあゆみ」の利用については各講座の中で説明してきたが、十分活用されていない状況がある。20年度は、講座検索システム「研修ナビ」を一層利用しやすくするなどして、教職員一人一人のキャリアと必要な研修をつなげるための支援をしていくとともに、「研修のあゆみ」の記録等を参考にさらなる研修体系の見直しを図っていく。

## 重点取組4 学校が「豊かな学びの場所」となるための「学校づくり」支援

【主な取組状況】

### ・活力ある学校づくりの推進

校長マネジメント研修では、「活力ある学校づくり検討委員会」の答申についての教育長講話や校長同士の意見交換を行い、答申の意義を共通理解する場を設定した。小学校で33校が一部教科担任制を、中学校で2校が学年担任制を実施した他、連学年合同授業や小規模校同士によるテレビ会議システムを活用した合同授業など、各校で答申を具現化する多様な取組が行われた。

### ・教職員の働き方改革のための懇談会の開催

外部の有識者、民間事業所、学校関係者等を交えた懇談会を開催し、「長野市の学校における働き方改革推進のための基本方針」に係る留守番電話、部活動などの具体的な取組ごとにグループを編成し、協議した。参加者からは、今後の参考となる様々な意見や提案をいただき、課題を整理することができた。

### ・タイムカード等により勤務時間管理の徹底

昨年度、すべての学校においてタイムカード等の機器による勤務時間の客観管理ができるようになった。本年度は「週あたり勤務時間が60時間を超える教職員がゼロ」になることを目指す中、特に中学校において県のスポーツ活動指針に沿って取り組んだ結果、週あたり勤務時間が60時間を超える教職員の割合が4割以上減少した。

【目標・評価指標】 前年を上回る状況の項目を赤字で表示

週あたり勤務時間が60時間（1か月あたり80時間の時間外勤務に相当）を超える教職員がゼロ

| 評価指標 時間外勤務調査より1か月80時間を超える教職員割合 |  |   |            |
|--------------------------------|--|---|------------|
| 2017年度                         | 2018年度                                   | 2019年度                                  | 目標（2020年度） |
| 測定値なし                          | 小学校6.1%（1,567人中96人）<br>中学校18%（948人中168人） | 小学校5.9%（1,586人中94人）<br>中学校10%（952人中95人） | 現状を下回る     |

## 2020年度の重点取組 ピックアップ

- ・新学習指導要領への移行期間最終年となる中学校については、学力向上年間計画の立案をサポートするために指導主事が学校訪問を実施する。（重点取組1）
- ・各教科の学習でICTを活用できるように、児童生徒に指導できる教職員を育成するため、「スクールパートナーズながの」などの関係機関と連携しながら各校の実践研究を支援するとともに、プログラミング教育の推進について支援する。（重点取組1）
- ・市教育センター研究委員会では、「多様性ある学びの実現」をテーマに据え、公開授業や授業研究会などの実践的な研究を通して、日常の授業における多様性ある学びの具現化を図っていく。（重点取組2）
- ・働き方改革の基本方針に掲げた20の取組を推進するとともに、国・県の動向や学校現場の実状を踏まえ、必要に応じて取組や方針の見直しを行い、質の高い授業の実現につなげていく。（重点取組4）
- ・「活力ある学校づくり検討委員会」の答申に基づき、引き続き、学校が「豊かな学びの場」となるための一部教科担任制や学年担任制、合同授業の実施等に係る情報やアイディアの提供などを行っていく。（重点取組4）

## 確かな学力の育成のために

### 重点取組1 諸調査の分析に基づく「指導改善サイクル」の構築

【主な取組状況】

#### ・NRT を軸とした「指導改善サイクル」の構築

NRT と全国学力調査の相関関係を活かした分析結果を利用し、各校の指導改善サイクルがより効果的なものになるよう支援した。

#### ・指導主事による分析研修支援の充実

研究主任研修会や指導主事の学校訪問（22校）では、一人一人の児童生徒に応じた支援につなげる生徒理解的な視点や、教科系統的な視点による分析を生かした授業改善についての校内研修を実施した。



全職員による分析研修会

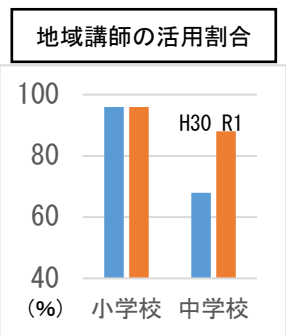
### 重点取組2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員研修等の充実

【主な取組状況】

#### ・主体的・対話的で深い学びの実践と公開授業

基幹校である市立長野中学校では、新学習指導要領の理念の具現化に向け、「翼プロジェクト」の時間を中心に長野市のまちづくりについて考える「元気だ！長野 MY プロジェクト」などを授業公開した。参観した教員からは「自分の『なぜ』を集中して追究する姿が素晴らしく、学び続けることのできる個人や集団としての高まりを感じた」等の感想が寄せられた。

各校においても、総合的な学習の時間において地域の方を講師に招いた割合は小学校で96%、中学校は20%増の88%と高まり、地域社会について自ら主体的に考える学びが広がってきた。



善光寺ウォーク

### 重点取組3 外国語教育の充実

【主な取組状況】

#### ・「発達段階に応じた英語教育全体イメージ（英語教育のビジョン）」の作成

「英語の4技能を活用できるグローバルな子どもの育成」を目標に掲げ、各発達段階に応じた取組を推進していくための英語教育のビジョンを作成した。本年度は、常勤ALTを3名増員して小学校にALTを配置し、生きた英語に触れる機会を増やした。

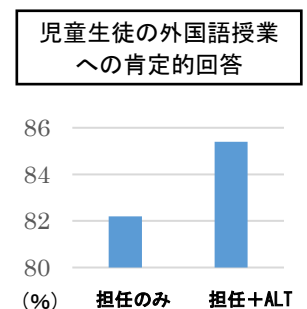
#### ・全国学力・学習状況調査（英語）に係る生徒質問紙の分析

授業改善を進めるため、「原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたか」など学力と相関のある5つの項目を抜粋し、分析シートを作成して英語教科会で改善策を見出せるように支援した。

#### ・ALT研修会の実施

昨年度に引き続き、本年度も公開授業を含めた5回のALT研修会を実施し、チームティーチング（TT）の方法や教材の活用、子どもとの接し方等についての理解を深めるなどしてALTの資質向上を図ってきた。

ALTと担任によるTT授業の実施により、授業の満足度が高い状況が続いている。



ALT授業研究会の様子

## 【目標・評価指標】

### 「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上

\*2019年度から知識・技能や思考力・判断力・表現力を一体的に問う調査問題に変更 全国を上回る状況の項目を赤字で表示  
※の教科は3年に一度の実施

| 評価指標 全国学力・学習状況調査 国語、算数・数学の全国平均比          |  |  |                                  |                 |
|--|--|--|----------------------------------|-----------------|
|  | 2017年度                                     | 2018年度   | 2019年度                           | 2020年度          |
| 小学校                                      | 国語A:102.0 国語B:101.6<br>算数A:101.7 算数B:102.0 | 国語A:103.2 国語B:101.1<br>算数A:99.7 算数B:100.6<br>※理科:104.5 | 国語:103.4<br>算数:100.6             | 全ての教科で<br>100以上 |
| 中学校                                      | 国語A:100.9 国語B:98.5<br>数学A:97.4 数学B:97.3    | 国語A:99.9 国語B:99.2<br>数学A:97.9 数学B:95.8<br>※理科:99.8     | 国語:101.6<br>数学:100.3<br>※英語:98.2 | 全ての教科で<br>100以上 |
| 評価指標 全国学力・学習状況調査 正答率が40%以下の児童生徒の割合の全国平均比 |  |  |                                  |                 |
|  | 2017年度                                     | 2018年度   | 2019年度                           | 2020年度          |
| 小学校                                      | 国語A:80.0 国語B:91.4<br>算数A:88.0 算数B:93.7     | 国語A:74.0 国語B:94.0<br>算数A:93.3 算数B:97.1<br>※理科:77.2     | 国語:84.0<br>算数:99.2               | 100以下           |
| 中学校                                      | 国語A:114.2 国語B:99.2<br>数学A:110.7 数学B:108.7  | 国語A:100.0 国語B:98.9<br>数学A:108.3 数学B:108.0<br>※理科:98.1  | 国語:90.8<br>数学:98.0<br>※英語:101.3  | 100以下           |

- ◎NRTの分析結果を活かした指導改善サイクルの構築により、小学校では全国平均を上回り、中学校では国語、数学で全国平均を上回ったものの、英語は下回り、課題が見られた。
- ◎英語を除いて小・中学校ともに正答率40%以下の児童生徒の割合が少なくなったことから、基礎学力の定着が進んでいると考えられる。

### 新学習指導要領を踏まえた教育活動の充実 前年を上回る状況の項目を赤字で表示

| 評価指標 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 小学校6学年 中学校3学年<br>「主体的な学び」、「対話的で深い学び」の実施に係る肯定的な回答の全国平均比 |                        |                        |                        |                |
|---|------------------------|------------------------|------------------------|----------------|
|   | 2017年度                 | 2018年度                 | 2019年度                 | 2020年度         |
| 主体的な学び  | 小学校:101.2<br>中学校:101.2 | 小学校:102.5<br>中学校:100.0 | 小学校:101.0<br>中学校:101.9 | 現状を上回る         |
| 対話的で深い学び  | 小学校:96.6<br>中学校:96.1   | 小学校:98.2<br>中学校:95.2   | 小学校:98.8<br>中学校:96.2   | 100以上<br>100以上 |

- ◎「主体的な学び」に係る回答から、中学校において改善が進んでいる状況が見られる。「対話的で深い学び」については、小・中学校ともに上昇傾向にある。

## 2020年度の重点取組 ピックアップ

- NRTを軸とした指導改善サイクルの構築に向けて、全教職員による分析研修を位置付けた中学校の事例を研究主任研修会で紹介し、研究推進計画に分析研修を取り入れるための支援を行う。  
(重点取組1)
- 各教科の指導主事が ICT 機器を効果的に活用した授業を積極的に提案するなどして、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現につなげていく。(重点取組2)
- 中学3年生の段階で英語の4技能の到達度を確認するとともに、授業改善につながる検定試験(GTEC)をモデル校に導入する。また、英語の分析シートをもとにして中学校教科会への学校訪問支援を実施するなどして、授業改善を一層推進していく。加えて、小学校中学年へのALT重点配置を行い、外国語活動が始まる初期段階で、子どもたちが英語の楽しさを十分味わえるようにしていく。(重点取組3)

**重点取組1 道徳教育・人権教育の充実**

【主な取組状況】

- **授業公開と合わせた教育センター研修講座の実施**

市教育センターに道徳教育研究委員会を設置し、『『考える道徳』、『議論する道徳』への質的転換を図る授業のあり方』の研究テーマの下、小学校2校、中学校3校において授業公開を行った。市立長野中学校の授業公開は指導主事の講義とセットで行い、実践と理論が結びついた実践的な研修となった。



市立長野中公開授業

「考える道徳・議論する道徳」

- **指導主事による学校訪問支援**

60校の学校訪問支援の要請に応え、子ども同士がお互いのよさを認め合いながら学び合う授業づくりに向けて指導主事が支援を行った。インターネット等による人権侵害、いじめ、LGBTなど、個別の人権課題について取り扱う学校が増えてきた。

**重点取組2 いじめの未然防止・早期対応、登校支援の充実**

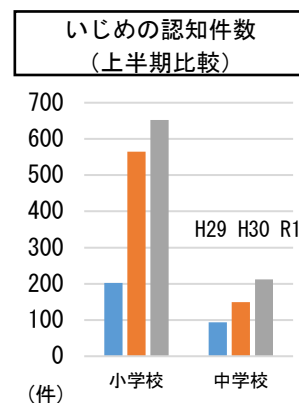
【主な取組状況】

- 「いじめ防止等のための基本方針」の改訂

長野市いじめ問題対策協議会及び長野市いじめ問題調査解決チームの助言に基づき、長野市「いじめ防止等のための基本方針」を見直した。あわせて、市立小・中学校79校も同様に、基本方針の見直しを行い、ささいなけんかやふざけあいであっても軽視せず、いじめの可能性のある事象について広く認知の対象とした。

- **長野市生徒指導調査の活用による積極的ないじめの認知**

いじめの認知件数は、上半期の調査で小学校652件、中学校212件であった。各校において、いじめの状況に関するアンケートを年4回実施するなど、積極的ないじめの認知を行い、早期に対応する動きが進んでいるものと考えられる。



- **しなのき児童生徒意識アンケートの活用**

児童生徒に関わるいじめをはじめとする諸問題につながる学級内の児童・生徒間や教職員と児童生徒間の理解を促進するためのアンケートを年2回実施した。その結果を比較分析し、学校内での支援の振り返り、改善策の提案・実践を計画的に位置づけるための研修を実施した。

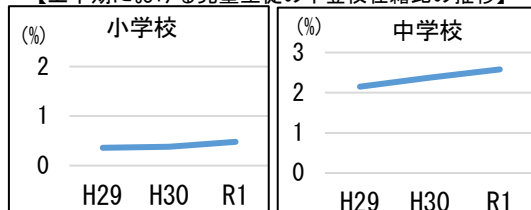
- **さっと学援隊やスクールソーシャルワーカーによる早期対応の学校支援**

各校に「さっと学援隊」を派遣し、弁護士等と連携しながら学校諸問題に対し未然防止・早期対応を行ってきた。登校支援については、状況に応じてスクールソーシャルワーカーを派遣し、保護者・教職員等に対する支援、外部機関等とのネットワーク構築を行った。

- **中間教室や民間団体関係者との連携**

学校外を居場所とする児童生徒のために毎月1回の中間教室適応指導員との連絡会、フリースクール等民間団体との情報交換を行い、外部の専門家も交えながら、在籍児童生徒に対する支援の方向を共有してきた。

【上半期における児童生徒の不登校在籍比の推移】



## 重点取組3 一人一人を大切にした教育環境の整備

【主な取組状況】

### ・幼保小連携会議の開催

幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が連携して作成した接続期カリキュラムに基づき、公開保育・授業や研修会を実施した。幼保園と小学校が互いに願う子どもの姿を共有することで、幼保園での育ちを意識した小学校の授業実践が増えた。

※MIM (Multilayer Instruction Model) 「多層指導モデル」通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援をしていくもの

### ・特別支援教育の視点からの学校支援

新1年生の状況を含めた児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育環境を整えることを大切に、授業のユニバーサルデザイン化やそれに関わる教材 (MIM※) の紹介、具体的な支援方法等を中心に、10の研修講座の開催、複数指導主事による複合的な視点や学校のニーズを大切にした学校訪問 (61校【昨年40校】)、支援会議 (34校【昨年27校】) への参加等による学校支援を行った。特に「MIM」について、読みにおける早期支援の重要性を踏まえて小学校を中心に研修を行ったことにより、低学年を中心に通常の学級で活用し始める学校が増えてきている。

### ・特別支援教育支援員 (支援員) と日本語巡回指導員の配置

学校支援をサポートする人材については、看護師資格を持つ支援員32名を含む154名と、日本語指導協力者2名を含む14名の日本語巡回指導員を配置し、発達特性や医療的ケア、学習、日本語理解等の状況に応じた支援を継続的に行った。特に、校内全体で全児童生徒を支援する体制が構築されている学校を先行事例として、支援員の校内配置について研究を進めている。

【目標・評価指標】 前年を上回る状況の項目を赤字で表示

### 豊かな心を育む道徳教育・人権教育の推進

| 評価指標 長野市「学校評価アンケート」<br>道徳 「授業を受けてよかった」「やってよかった」等の肯定的回答の割合 |                        |                        |        |
|---|------------------------|------------------------|--------|
| 2017年度  | 2018年度                 | 2019年度                 | 2020年度 |
| 小学校：81.4%<br>中学校：79.9%                                    | 小学校：83.7%<br>中学校：81.6% | 小学校：83.2%<br>中学校：81.9% | 90%    |

◎肯定的回答の割合をさらに高めていくため、引き続き、子どもの多様な考えを生かしながら、「考え、議論する」授業への質的改善を図っていききたい。

### いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実 全国を下回る状況の項目を赤字で表示

| 評価指標 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査<br>不登校児童・生徒の新規不登校率 |  |  |                     |
|---|--|--|---------------------|
| 2017年度 (2016年度調査)                                     | 2018年度 (2017年度調査)                          | 2019年度 (2018年度調査)                          | 2020年度              |
| 小学校：47.4% (国 50.3%)<br>中学校：42.8% (国 42.2%)            | 小学校：51.8% (国 51.2%)<br>中学校：40.0% (国 41.6%) | 小学校：56.8% (国 57.4%)<br>中学校：44.5% (国 45.7%) | 国の新規不登校率の<br>数値を下回る |

◎児童生徒の新規不登校率は、小・中学校ともに国の不登校率を下回ったものの、不登校在籍比は年々増加の傾向にある。

## 2020年度の重点取組 ピックアップ

- ・多様性を認め合う人権感覚を育成するため、具体的な事例をもとに、自分を当事者の立場に置きかえて話し合う演習や模擬授業を取り入れた実践的な職員研修を実施していく。(重点取組1)
- ・不登校の事由に着目し、重点校を中心に外部機関が同席したスクリーニング会議や支援会議の実施を広げていく。特に、学校環境や教職員が起因すると思われる事案の改善に向けた取組により、児童生徒が安心して生活できる学校づくりへの支援を行う。(重点取組2)
- ・校内教育支援体制の充実に向けて、3つの視点を中心に学校支援を行う。
  - ①複数ある特別支援学級の運営の工夫
  - ②全教職員体制づくりに向けた支援員の校内配置
  - ③通常の学級における、特別支援教育の視点を取り入れた学習の土台づくり  
(MIM、自立活動等を取り入れた学習の紹介) (重点取組3)

**重点取組 1 夢中になって運動に取り組むための機会提供と環境の整備**

【主な取組状況】

- **運動と遊びのプログラム「しなのき わくわく運動遊び」の実施**  
3会場で実施し、子ども121名、保護者110名、教職員11名の参加があった。参加した保護者と教職員のほぼ全員から、「運動好きな子を育てるためのヒントを得られた」との回答が得られた。
- **運動サーキットの拡充**  
モデル校4校（吉田小、湯谷小、古里小、下氷鉤小）に加え、新たに普及推進校7校（古牧小、大豆島小、朝陽小、篠ノ井西小、信里小、青木島小、信更小）で実施した。各校とも保護者や教職員の協働によって、校地環境に応じた「新たな運動遊びの場」を設置し、それを活用して楽しむ子どもたちの姿につなげた。



親子で楽しく運動遊び

空き教室を運動遊びのスペースに  
(湯谷小学校)**重点取組 2 体力向上に向けた調査分析を生かした授業改善と運動活動の実施**

【主な取組状況】

- **教育センター「学校体育・学校保健研究委員会」での体力向上推進**  
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析と調査結果を踏まえ、校地内の運動環境整備、体育の授業改善、健康教育の充実の3視点から研究を推進。公開授業等で成果を発信した。
- **全国調査を活用した教育センター講座や出前講座の実施**  
授業改善や体力向上のための取組について、教員を対象に研修講座を実施した。
  - 教育センター講座「シンプルで子どもが伸びる体育の授業づくり」  
講師の筑波大附属小教諭による示範授業を参観し、授業改善や実技指導のポイントを具体的に話し合って考える講座とした。(参加者：41名)
  - 「体育授業しなのきモデル」普及訪問  
小学校教員を対象に、体育授業改善のための出前講座を17校で実施し、運動好きな児童を育むための授業づくりについて、実技講習を通して提案した。

**重点取組 3 東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校としての取組**

【主な取組状況】

- **パラリンピアンを講師としたパラリンピック教育の実施**  
マセソン美季さん（長野冬季パラ大会金メダリスト）、加藤正さん（長野冬季パラ大会金メダリスト）、馬島誠さん（バンクーバー冬季パラ大会銀メダリスト）等、パラリンピアンによる教員研修や児童生徒を対象とした出前講座を実施した。
- **他国のナショナルチームとの交流の実施**  
アクアウィングで合宿を行ったデンマーク競泳チームや、W杯男子バレーボール長野大会に出場したオーストラリアチーム、カナダチームと、一校一団運動等で関わりのある小学校の児童との交流の機会を設けた。
- **「オリパラ食べ歩きツアー」の実施**  
保健給食課、長野市栄養士会と連携し、ホストタウン相手国等の料理を学校給食に提供する「オリパラ食べ歩きツアー」を年間5回実施した。



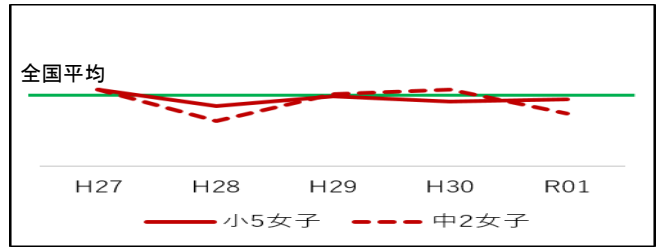
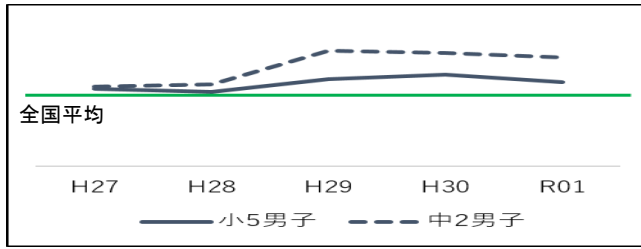
パラスポーツ出前講座

カナダチームと  
若槻小児童との交流



令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

【体力・運動能力】体力合計点（T得点）の推移（全国比）

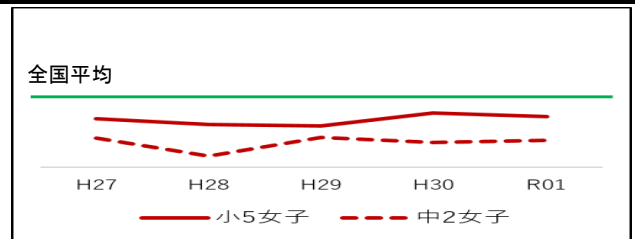
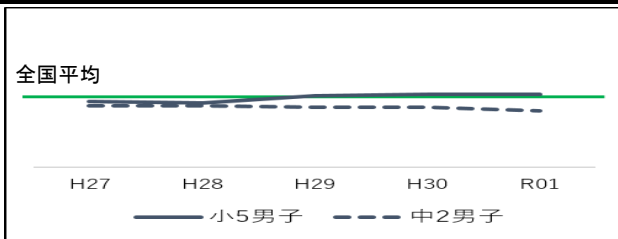


◎男子は小5、中2とも全国平均を上回る状況が続いている。小5女子は全国平均並み、中2女子は3年ぶりの下降となり、全国平均を下回った。

【目標・評価指標】 前年を上回る状況の項目を赤字で表示

授業以外の1週間の運動時間が60分以上の児童生徒の増加

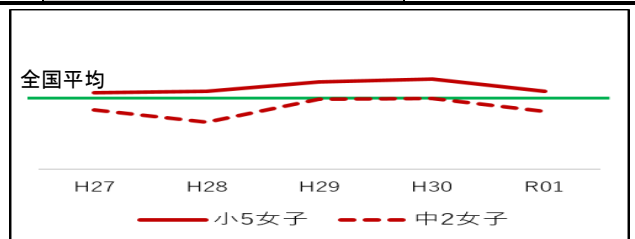
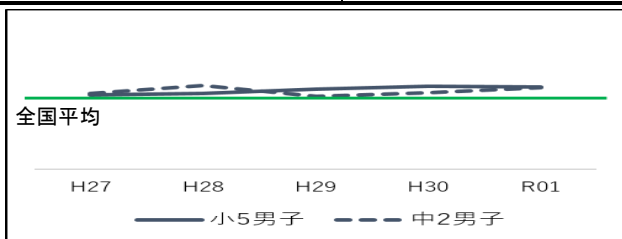
| 評価指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒質問紙<br>体育の授業以外の1週間の総運動時間が60分以上の児童生徒の全国平均比 |                  |                  |         |
|--|------------------|------------------|---------|
| 2017年度   | 2018年度           | 2019年度           | 2020年度  |
| 小5男子100 中2男子97.6   | 小5男100.3 中2男97.6 | 小5男100.3 中2男96.8 | 男子100以上 |
| 小5女子93.7 中2女子91.3  | 小5女96.4 中2女90.3  | 小5女95.6 中2女90.7  | 女子95以上  |



◎小5男子は全国平均を上回った。小5女子、中2男女は全国平均を下回る状況が続いており、運動習慣を形成するために更なる取組が必要である。

遊びを通じた「運動好き」な児童生徒の育成

| 評価指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒質問紙<br>運動やスポーツをすることが好きと答える(肯定的回答)の児童生徒の全国平均比 |                   |                   |                                       |
|---|-------------------|-------------------|---------------------------------------|
| 2017年度  | 2018年度            | 2019年度            | 2020年度                                |
| 小5男子101.8 中2男子100.3   | 小5男102.4 中2男101.4 | 小5男102.3 中2男102.2 | 小5男子、中2男子、<br>小5女子：現状以上<br>中2女子：100以上 |
| 小5女子103.3 中2女子99.7  | 小5女103.9 中2女99.9  | 小5女101.4 中2女97.2  |                                       |



◎小5男女、中2男子は全国平均を上回る状況が続いている。中2女子は全国平均を若干下回った。

2020年度の重点取組 ピックアップ

- ・(小) 長野市版運動サーキット普及事業では普及推進校を増やし、モデル校の成果を多くの小学校で共有する。また、わくわく運動遊び、「体育授業しなのきモデル」訪問により、運動好きな子を育てるための運動遊びの更なる普及を図る。(重点取組1)、(重点取組2)
- ・(中) 「ダンス」「ゆるスポ」などのテーマ別のモデル校を指定して中学校の計画訪問を実施し、体育授業、健康教育の充実を図り、運動習慣の定着につなげる。(重点取組2)
- ・東京2020大会の開催年となる。アスリートとの交流の機会を増やし、オリパラ教育による異文化理解、障害者理解、運動への意欲喚起をより一層推進する。(重点取組3)

## 重点取組1 学校間連携推進、地域との連携推進への支援

【主な取組状況】

### ・連携推進ディレクターによる活動の促進

全中学校区に配置した8名の連携推進ディレクターが校長の願いを把握しつつ、「答申」の具現化に向け、合同授業などの様々な取組に向けた日程・移動手段などの学校間調整を行うなどして各校の連携活動を促進した。各校の具体的な連携の取組について「連携便り」等を通して、担当中学校区内の学校や地域へ発信した。



芋井小学校と加茂小学校  
5年生合同の英語学習

## 重点取組2 自立した18歳を育成するための「学校づくり」の推進

【主な取組状況】

### ・2年間の研究のまとめを小・中学校に配信

昨年度に引き続き、七二会小、中条小、信州新町小、大岡小、裾花小、裾花中、松代中、三陽中の8校において研究を行った。中学校教員による英語や体育の乗り入れ授業、テレビ会議システムを活用した遠隔授業、松代中学校区の小・中学校交流事業など「自立した18歳」に向けた2年間にわたる研究の成果と課題をまとめ、小・中学校に配信した。



七二会小、中条小、信州新町小  
ICTを使った3校遠隔合同授業

## 重点取組3 基幹校としての市立長野中学校における教育研究の推進

【主な取組状況】

### ・「行って！見て！感じて！」市立長野の授業公開

今年度は29回の授業公開を実施し、教員はもとより、市立長野中への進学を目指す児童や保護者、地域の方、行政・教育関係者等が参観した。公開授業では、生徒個々が「問い」を設定し、解決方法を考えて試す追究の様子や、英語による討論やプレゼンテーションに取り組む様子など、新学習指導要領で求められている学びの姿を広く市内の小・中学校教員にモデルとして示すことができた。来年度は、小中学生が、授業公開に参加できるようにしたり、近隣の小中学校と連携した授業実践を行ったりして、市立長野の学びを体感できる場を設けていく。



公開授業の様子（1年理科）

【目標・評価指標】

### 幼・保・小・中・高の連携推進

| 評価指標 「活力ある学校づくり、連携事業取組一覧」 連携推進ディレクターの関与した取組 |      |      |      |     |              | 2020年度       |
|---|------|------|------|-----|--------------|--------------|
| 幼保小中高連携                                     | 小小連携 | 小中連携 | 地域連携 | その他 | 8名の合計        | 7名の合計        |
| 59回   | 61回  | 186回 | 67回  | 41回 | 414回(52回/1人) | 385回(55回/1人) |

◎テレビ会議システムを活用するなどの交流活動や修学旅行などの合同行事、部活動合同練習、一部教科担任制や学年担任制などの柔軟な校内体制づくり、中学校区合同職員会議など、日常的に連携推進ディレクターが関わることで多様な取組が各校に広がってきた。

## 2020年度の重点取組 ピックアップ

- ・今後も、活力ある学校づくりの「審議のまとめ(答申)」を踏まえ、各校の実態に合わせた効果的な学校間連携を進めるとともに、**取組を各校の教育課程や年間計画に位置付け、組織的計画的にすすめるよう、支援を継続**していく。(重点取組1)
- ・自立した18歳を育成するための「学校づくり」事業では、答申を踏まえた学校間連携や家庭・地域・事業所等との連携を進めるための研究校を募集し、2年間継続的に支援していく。(重点取組2)

## 地域・家庭・事業所との連携を推進するために

### 重点取組1 コミュニティスクールの取組の充実

【主な取組状況】

- ・長野市コミュニティスクール推進セミナーに104名が参加。全参加者のうち、地域からの参加者が34名（昨年度12名）と増加した。ボランティアによる給食配膳支援などが行われている小学校の事例を紹介し、各校における一層の支援を要請した。
- ・防災教育の推進



自校の取組を発表する様子

研修講座で、ハザードマップを確認しながら「危機管理マニュアル」の見直しを図った。また、児童生徒が安全上の課題について自ら考え主体的に行動できるようにするために、「危険予測演習」や「地域や校内の安全マップ作り」等の手法を取り入れた防災教育や地域を巻き込んだ避難訓練を実施した学校の取組を周知した。

### 重点取組2 家庭と連携した基本的生活習慣の確立

【主な取組状況】

- ・市少年育成センターとの連携による啓発活動  
市立小・中学校や地区育成会等に向け、ネット・スマホに係る家庭でのルール作り、コミュニケーションの大切さについて講演や育成センターだよりの発行等により、啓発活動を実施した。
- ・「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究（JEL S調査）」の実施  
青山学院大学の耳塚寛明教授らによる調査に協力し、社会経済的背景と学力の関連について研究グループから1年次の調査報告を受けた。

### 重点取組3 キャリア教育支援懇談会等による事業所との連携推進

【主な取組状況】

- ・三陽中学校をキャリア教育推進の研究校とし、産学官連携の在り方をより具体的に見出すための実践的な研究を進めてきた。11月、12月、2月に実施した支援懇談会では、研究校と地域の事業所との連携の組織・体制づくりや研究校の授業における生徒の姿をもとに懇談を行ってきた。

### 重点取組4 少子・人口減少社会に向けた活力ある学校づくりの推進

【主な取組状況】

- ・「審議のまとめ（答申）」及び特別委員会「報告」を踏まえ、住民自治協議会等との連絡・調整を行った上で、「答申」について保護者との対話を進めている。来年度は、全小学校区で保護者との対話の着実な実施に努めていく。

【目標・評価指標】 前年を上回る状況の項目を赤字で表示

#### 地域・家庭・事業所との連携

| 評価指標 長野市学校評価 保護者への質問項目                         |        |        |        |        |
|--|--------|--------|--------|--------|
| 「学校は、地域の方を講師とするなど学習支援の取組を行っていると思うか」への肯定的な回答の割合 |        |        |        |        |
| 2016年度   | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
| 71.6%  | 74.5%  | 75.0%  | 74.1%  | 80%以上  |

◎保護者の受け止めは2017年度から大きく変化していないが、引き続きコミュニティスクールなどの仕組みを活用して地域の協力を得られるように努力していく。

### 2020年度の重点取組 ピックアップ

- ・各校の学校防災体制の強化と安全防災教育の充実を図るため、**学校・家庭・地域・関係機関の連携体制の確立**と安全防災教育に係る**PDCAサイクルの構築**について支援していく。（重点取組1）
- ・家庭と連携した学力向上の取組を推進するため、JEL S調査をすすめていく。（重点取組2）
- ・キャリア教育支援懇談会では、**三陽中学校と新たに中学校1校を研究校に指定**し、産学官連携の在り方について実践的な研究を進める。（重点取組3）
- ・中学校部活動を「自立への育ちに向けた学びの場」として新たに構築していくための、中・長期方針を作成した。生徒の主体性と多様性を尊重し、持続可能な部活動の運営体制を整備するための取組について**各中学校や地域社会とともに研究**を進める。（新規）

